

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400054		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホームべにばら妹背牛		
所在地	雨竜郡妹背牛町字妹背牛406番地7		
自己評価作成日	平成30年9月30日	評価結果市町村受理日	平成 30 年 12 月 10 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400054-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のケアや業務に関し随時スタッフ間で話し合い、どのような支援が利用者のより良いケアに繋がるか取り組んでいます。穏やかな雰囲気の中で日々笑顔で楽しく、安心して過ごしていただいています。町内会の行事に参加するなど地域との関わりも大切に考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR妹背牛駅、交番、商店などが近くにあり、閑静な住宅街に溶け込むように建っている木造平屋建ての事業所で、居間・食堂は一体的で、天窓から陽が入り明るく、利用者が職員と一緒に作った貼り絵、季節に合わせて、柿、栗、もみじなどプラスチェックで作った作品、ハロウィン用のかぼちゃなどを飾って家庭的な雰囲気の中で、明るい職員の声、利用者、職員の笑い声が聞こえ、利用者はゲームをしたり、歌を歌ったり、体操、貼り絵などをしながら思い思いにゆったりと過ごしている。「地域との連携をとりながらそれぞれの尊厳を守り穏やかに生活の場を目指す」を事業所理念とし、町内会の清掃、七夕祭に参加して交流し、保育園児、学童保育児童が来訪して歌、踊りなどで交流を深めている。また、町民作品展に利用者の作品を出展して地域の一人として連携している。運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、参加者に対して、「認知症の記憶障害とは」、「高齢者虐待・身体拘束について」など、毎回勉強会を行って認知症についての理解を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示したり、ネームプレートの裏面に記載し、いつでも理念を確認し実践に繋げるように努めている。	法人理念と事業所理念をホーム内に掲示し、さらにネームプレートの裏面にも記入して、職員で共有しケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町の行事や町内会の行事・活動に参加している。地域ボランティアの受け入れや保育所との交流も行っている。	事業所理念に「地域との連携をとりながら・・・」を明記して、町内会に加入し町内行事(清掃、七夕まつり)や敬老会に参加している。又、町民作品展に出展したり、保育園児、学童保育児童などと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域ケア会議を通し高齢者や認知症の方への支援について話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現況や活動報告を行いご家族、利用者、地域の方々の意見や助言をいただきサービス向上に努めている。	2ヶ月に一度開催し、地域住民、町職員、民生委員、家族、利用者代表などが参加している。運営状況や行事、事故報告等を説明し意見や助言を得てサービス向上に活かしている。「認知症の記憶障害とは」など、毎回勉強会を行って理解を深める取組をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加し情報交換を行っている。必要時には訪問や電話連絡にて協力し合っている。	書類提出や運営状況を報告したり、地域ケア会議に参加するなど役場福祉課とは常に連絡を取り合い、意見交換や指導、助言、情報を得て協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会や研修で学び、職員間で話し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除宣言をして、身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束をしないケアを職員で話し合って実践している。身体拘束廃止委員会を中心に検討し、家族への説明同意を得て、夜間のみ2名、離床センサーマットを利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について勉強会や研修で学び、職員間で話し合いながら虐待防止に努めている。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでの勉強会等ではまだ十分に理解し活用できていない。再度勉強会等で話し合い、理解を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行ない、利用者、ご家族に理解・納得を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話などから利用者の意見や要望を聞いたり、ご家族からは来訪時や電話等で意見や要望を聞き運営に反映させている。	日常の会話などから利用者の意見、要望を聞いて反映させ、家族来訪時に近況を報告し、個々の意見や要望を聞いている。また、「べにばら妹背牛だより」を毎月送り、利用者の日常の様子を報告して運営推進会議で意見・要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や日々の業務の中で意見や提案を聞き反映に努めている。	日常的にもその都度話し合っており、毎月のケア会議でも意見や要望を話し合っている。年1回理事長との面談があり、理事長は各事業所を巡回し、利用者の声、職員の意見・要望を把握しサービス向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々に面談を行ったり、常時意見や要望を聞き勤務状況等を把握するよう努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修に参加する機会を設け、参加を呼び掛けてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修以外の交流の機会は少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や必要に応じ本人やご家族からお話を聞いたり、かかりつけの医療機関などからの情報も参考にしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で要望等を伺っている。随時相談や要望等を聞けるようにし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族からの要望を聞き、必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意見を伺ったり、お手伝いをお願いしたり協力し合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に対する家族の思いや要望を聞き、話し合い協力し合える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じ馴染みの理美容院や店を利用できるよう支援している。友人・知人の来訪時にはゆっくりと過ごしていただけるよう支援している。	理美容室や買い物など希望時に送迎し支援している。友人・知人の訪問時はゆっくり懇談出来るように支援している。家族と一緒に墓参りや自宅、親戚の家に行くなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う、合わないなど利用者同士の関係を把握し、時には職員が間に入ったりしながら利用者同士が関わり合えるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去理由の多くが入院や転居であり面会に行くなどしている。ご家族にお会いする機会があればお話を伺ったりしている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のお話を聞き、希望に添えるよう努めている。困難な場合は表情や行動などから思いをくみ取れるよう職員間で情報を共有しながら希望に添えるよう努めている。	表情、行動などから思いを汲取り、入浴時などにゆっくり話をしながら意向の把握に努め、職員で共有し希望や意向に添うように努めている。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族からお話を伺い、記録などからの情報も参考にし把握に努めている。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎや記録などから情報を共有し把握に努めている。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族、職員同士で話し合い作成している。	利用者、家族の意向を反映させ、ケア会議で話し合い、4ヶ月ごとに見直し、現状に即した介護計画を作成して家族の確認印を得ている。現状に変化があればその都度見直している。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やカンファレンスで情報を共有し実践に活かしている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせてご家族や関係者と協力し合いながら支援に努めている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護サービスだけではなく地域のボランティアの受け入れなど利用者が楽しめるよう努めている。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を取り入れながら、時にはご家族に協力していただきながら適切な医療が受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に添ってかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。職員が同行し、変化があれば結果を家族に報告している。協力病院による月2回の往診がある。				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、職場内に看護職員はおらず気がかりな点や気づきがあった場合、連携医療機関に相談し適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報提供書を提出したり訪問や電話にて情報交換をしている。家族、医療機関と連絡を取り合い早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について書面を作り、入居時に十分に説明し同意を得て話し合いながら支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、家族・利用者に説明し同意を得ている。重度化が認められた時は主治医、利用者、家族と話し合い病院の医師と連携し希望に添えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時を想定した避難訓練を行っているが地域の方々の参加はない。実際に地震の影響で停電になった為、会議にて災害時の対策について話し合いをした。	年2回(7月実施済み、11月予定)避難訓練は昼夜それぞれ想定して消防署の指導(11月予定)を受け実施している。食糧、水を備蓄している。	9月6日の北海道胆振東部地震の体験を基に、停電・断水時の対応など、「社会福祉施設等における非常災害対策の手引き(平成29年8月北海道保健福祉部)を参照して計画の策定や見直しを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう対応している。	利用者1人ひとりの人格を大切に、その人に合った言葉がけをして、プライドや尊厳を損ねないケアに努めている。各種個人記録もプライバシーが守られるよう適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や思いを表し、自己決定できる対応を心掛けている。意思表出の困難な方には表情や言葉から思いをくみ取り、提案するなどして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れは決まっているが、その中で出来る限り本人のペースで過ごしていただくよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重し服を選んでいただいたり、散髪に出かけるなど対応している。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の作成した献立に基づき調理しているが、時には季節や旬を感じられるメニューに変更したり誕生会などで利用者の希望を取り入れたりと食事を楽しめるよう努めている。利用者にも下ごしらえや配膳、片付けに協力していただいている。	管理栄養士が作った献立に基づき職員が調理し、誕生会など行事食の時は利用者の希望を聞き入れ、又、柿、山菜(ふき、ワラビ、ウド)など季節感を取り入れて食事を楽しんでいる。個々の能力に応じて下ごしらえ、盛り付け、配膳の準備、食器洗いなど職員と一緒に会話をしながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状況などに応じ食べる量などの調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方には声掛け、介助が必要な方は介助で毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄のサインなど職員間で情報を共有し個々の排泄パターンやペースを把握し声掛けなどの支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、職員間で共有しながら表情、しぐさなどから、適時にさりげなく誘導し排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を工夫したり、牛乳やヨーグルトを提供したり、運動を促している。個々の排泄パターンを把握し医師や看護師に相談しながら便秘薬や整腸剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決められているが、入浴日を固定せず入浴チェック表を基に体調や本人の意思を考慮しながら支援している。	曜日を固定せず毎日お湯を入れ、最低週2回は入るようにしている。CDを聞きながらの入浴や、友人と一緒に入浴したり、会話をしながら入浴を楽しんでいる。入浴剤は希望により使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や体調などその時々状況に応じて休息や安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や効能などについての勉強会を行い把握と理解に努めているが不十分である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の片付けの中でも洗う、すすぐ、拭くと利用者間で自然に分担し役にたっていると張り合いを持って行っている。行事やレク、ドライブなど気分転換等の支援をしている。		

グループホームベにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に添えるよう支援に努めているが人手不足により希望に添えない場合も多い。	利用者の希望に応じ天気の良い日には散歩に行ったり、季節により桜・紅葉見学、ドライブ等を楽しんでいる。町内のお祭り、七夕まつりなどに参加し地域の人とも交流している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理ができる方はお小遣い程度の金額を所持し自由に使っている。その他の方は事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けたり手紙の代筆等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や飾り、室温や湿度に気を配り居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間兼食堂は、天窓があり明るく広く、季節の飾り物、貼り絵などを飾り、落ち着いた家庭的な雰囲気となっている。利用者はゲームをしたり、歌を歌ったり、体操、貼り絵などをしながら思い思いにゆったりと過ごしている。加湿器、温風ヒーターで室内は適度に調整され居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所など決められてはいないが、自然と本人の居心地の良い場所が決まっている。自由に座れる場所もあり思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持って来ていただき居心地の良い空間で過ごせるようにしている。	居室には使い慣れ親しんだ筆筒、座卓やテレビ、仏壇などが置かれ、壁には手作りのパッチワーク、写真などを飾り、それぞれが居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、各居室に分かりやすく掲示し、自立した生活ができるようにしている。		